



## 介護施設

# 介護ロボを積極的に導入し、先進介護を目指す！ 3年以上の取り組みで見えてきた「腰痛予防の方法」

社会福祉法人

## シルヴァーウィング

THE 7TH ROBOT AWARD  
第7回 ロボット大賞



### 審査員特別賞

社会福祉法人 シルヴァーウィング  
特別養護老人ホーム 新とみ  
(東京都中央区)



理事長 石川 公也 氏

※施設長 関口 ゆかり 氏にもインタビュー実施

### 先進介護の取り組みが進む 一人一人のご利用者を大切に介護施設

シルヴァーウィングは、「特別養護老人ホーム」「デイサービス」「ショートステイ」「訪問介護サービス」からなる東京都中央区にある福祉施設です。介護・リハビリロボットの積極的な導入・活用を行っており、様々なロボットがご利用者や介護スタッフのサポートを行っています。そのような活動が評価され、経済産業省及び一般社団法人日本機械工業連合会が幹事を務める「第7回ロボット大賞」において、「介護老人福祉施設の変革(生産性革命)実現のためのロボット利活用の推進」に対し、審査員特別賞を受賞しました。

また、有用性の高い介護ロボットの導入を促進することを目的として、シルヴァーウィングが主体となって「未来介護創造協議会」を発足させました。メンバーは「介護ロボットや福祉機器に精通した専門家」「介護施設」「開発メーカー」による事業機関で、介護現場における課題と解決するための技術をマッチングさせて、開発に向けた提案ができるよう活動しています。

### 標準タイプからスタンドアロンまで使いこなすマッスルスーツ®の達人

「マッスルスーツ®の導入には、最初は抵抗がありました。やはり定着させるためには現場への教育を重視しました。次第に、最先端の機器を使用しているということでスタッフのモチベーションが上がり、使用が定着していったと感じています。(理事長 石川氏)」  
シルヴァーウィングでは3年以上前から「腰補助用 マッスルスーツ®」を導入し主に夜勤帯でのオムツ交換、日中の移乗介助に使用しています。導入当初、標準タイプの使用では“重さ”や“呼気スイッチによる操作の難しさ”を感じていました。しかしこのような現場の声からインフィスが改良したモデル「スタンドアロン」を導入し運用を始めました。「スタンドアロンモデルになってからはスムーズに動くことができ、腰のサポートがずっと入っていて、導入当初からとても気に入りました。(リーダー 山崎氏)」



「慣れると装着が本当に簡単で重宝していますよ。もう30秒もかからないです。腰への負担を考えたら、装着時間がもったいないという発想はないですね。3年半使っていてもう手放せません。」

社会福祉法人 シルヴァーウィング 特別養護老人ホーム 新とみ  
介護福祉士 リーダー 山崎 伸行氏

現在シルヴァーウィングではいずれのタイプも運用しており、補助力の強い標準タイプは身体の大きな方への介助に利用しており、腰を痛めないよう継続して利用しています。

## 現場での意見交換が、より効果的な介護ロボ利用への第一歩

シルヴァーウィングでは介護スタッフや看護師がどうしたらロボットを効率的に使えるか、何度も意見交換を行ってきました。このような現場の声はイノフィスのメーカー側に伝えられ、新たな機器改良につながっています。そうした話し合いの中で、施設側も適切な業務フローを確立してきました。

現在、特別養護老人ホームの40名様に対し、介護スタッフ14名中12名が夜勤帯のオムツ交換の際にマッスルスーツ®を使用中です。「オムツ交換を3-4名続けて行くと腰への負担がすごく感じるんです。どうしても腰を守って休みながら業務を進めていくしかなくて。マッスルスーツ®を装着すると、腰を痛めるイメージを持つことなく継続して介助にあたるので作業効率も上がっていると思いますよ。(リーダー 山崎氏)」



山崎 伸行氏  
新とみ 介護福祉士 リーダー



←中腰維持の“オムツ交換”では必ずマッスルスーツ®を装着することをルール化している。既に3年半以上使用しているため、業務に活用できている。



そのようなマッスルスーツ®の効果は、スタッフだけではなく、ご利用者側にも副次的に表れています。便やおむつの処理は迅速に行い、恥ずかしい気持ちを長続きさせないように心掛ける必要があることから、マッスルスーツ®のサポートが効いているとスタッフからの意見が上がっています。「特に身体の大きなご利用者は、介護ロボに支えられているという安心感が出るようで、それは副次的なプラスの効果だと考えています。(施設長 関口氏)」

## 訪問介護で使用したい

シルヴァーウィングでは今後のマッスルスーツ®の活用を在宅サービスにまで拡げたいと模索しています。

施設長 関口氏「訪問介護では介護施設のように介護環境が整っていない中で介助する必要がある上、重度のご利用者もいらっしゃいます。そのような環境からスタッフが腰を痛めるリスクを軽減していく取り組みとしてマッスルスーツ®が活用できればと考えています。そのためにホームヘルパーが持ち歩けるような、利便性がさらに高まる製品開発をイノフィスには期待しています。」



基	本	情	報
使用モデル	1.標準タイプ(タンク式) 2.スタンドアロン(タイトフィット)		
導入時期	1. 2014年 10月 2. 2017年 3月		
台数	1. 4台 2. 2台(Fサイズ)		
主な使用シーン	オムツ交換 移乗介助(ベッド→車イス)		
時間帯	日中、夜間(約1.5時間)		
使用人数	約12名		
職種	介護福祉士		



お問い合わせ  
株式会社イノフィス  
TEL: 03-5225-1083  
Email: support@innophys.jp  
Facebook: <https://www.facebook.com/innophys.jp/>  
詳しくは <https://innophys.jp/> をご覧ください。

生きている限り、自立した生活を実現したい

東京理科大学発ベンチャー  
～夢のようなロボットではなく、人のためのロボットを～

